

佐々木 茂 光

あの日を忘れない…
地域再生へ
全力で走る

ごあいさつ

師走の候、皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

皆様のご支援のもと、3期目の県議会活動に入ることが出来ましたこと心から御礼申し上げます。

さて、陸前高田を見ると、街並みの再生、高台造成地への住宅再建、そして追悼祈念公園をはじめ松原周辺の整備。住田町に目を移すと340号（高田街道）の拡幅改良工事。そして三陸沿岸道の延伸…と、目に見える形での復興は着実に進んでおります。

しかし、その一方で、約4兆8千億円が投じられた復興事業の「進捗率と実感度」「巨額な投資と生活の実態」の開きを感じざるを得ません。

気仙川を眺めながら「川上、川下は繋がっている」、そんな思いを巡らしながら、8年前の「あの日あの時」を乗り越え、これから先の陸前高田市、住田町を見据えた道を切り開く地方自治のあり方を模索していく必要を感じています。

今まで以上に「復興完遂」「地方創生」という「我らが声」を国政、県政に届けて参ります。

今後とも、ご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

県議会の所属委員会・議連

農林水産委員会
人口減少対策調査特別委員会
東日本大震災津波復興特別委員会副委員長
水産振興議員懇談会副会長
岩手県南・宮城県北議員連盟幹事長
港湾議員連盟
国際リニアコライダー建設実現議員連盟
米穀園芸生産流通議員研究会
森林・林業政策研究会
消防議員連盟 他

復興・創生に全力で走る!!

佐々木茂光 **熱き** 思いを胸に
定例会一般質問に立つ!



東日本大震災津波からの復興について

問 復興を成し遂げた姿というものを、知事はどのように思い描いているか。

答 いきいきとした暮らしを実感でき、「安全の確保」「暮らしの再建」「なりわいの再生」を実感できた時であると考えている。



傍聴会

問 教訓を未来へ伝承していくため、どのような手段を行っていく考えか。

答 具体的には「震災伝承施設」の公募、震災伝承のネットワーク化や東日本大震災津波伝承館を整備、三陸防災復興プロジェクト2019や復興フォーラムの開催などに取り組んでいる。

問 交流人口の拡大に向けた観光振興についてはどうか。

答 三陸沿岸道路や三陸鉄道リアス線なども活用し、高田松原津波復興祈念公園・東日本大震災津波伝承館を沿岸観光の一つの拠点として、復興祈念公園やその周辺での震災学習メニューや食・自然・体験などの地域資源と内陸の観光資源とを組み合わせたツアーの造成・販売を促進していく。

第1次産業の振興について

問 農林水産業について、より一層の力強い成長をどのように進めるか。

答 「いわて県民計画」最終案に農林水産業を位置づけ、さらに「農林水産業高度化推進プロジェクト」を掲げ、ICT等の最先端技術を活用した農林水産業の高度化や、農林水産物の新たな価値の創出等による収益性の向上を進めている。

問 県産木材の需要動向と利用拡大に向けた取組についてはどうか。

答 需要は堅調に推移しているが、一方、将来的な人口減少社会の到来に伴う新たな需要創出や販路拡大が必要と認識している。率先した県産木材の利用推進やCLT製造技術の開発や東京オリンピック・パラリンピック関連施設での県産木材利用に取り組んできた。

問 漁港の多目的利用をどのように進め、今後、どのような取組を行おうとしているのか。

答 漁船の安全係留や水産物の効率的な陸揚げ、既存ストックを活用した漁港の多目的利用を進めていく。これまでも水産物の蓄養やプレジャーボートの係留、観光船発着所等としての利用を促進、重茂漁港では、静穏水域を活用したアワビ・ウニ増殖場の整備に取り組んでいる。

地域の医療と福祉について

問 医療・介護人材の確保に向けた取組はいかがか。

答 医師は、来年度、52名の養成医師を公的病院に配置し、沿岸地域には12名を配置する予定であり、養成医師から、沿岸地域等での義務履行を必須化し、

計画的に沿岸地域の医師を確保していく。看護職員は、修学資金貸付制度に被災者枠を設け宮古高看で入学定員を増員している。介護職員は、沿岸地域に4名のキャリア支援員を配置して、継続的に求人・求職のマッチング支援を行い、今年度は85名の就業に結びつけた。

交通ネットワーク整備について

問 新笹ノ田トンネルを含めて、内陸部と沿岸部を結ぶ横断道路の整備が重要になってくると考えるか。

答 内陸と気仙を結ぶ横軸の道路は、「復興支援道路」に位置づけ、国道343号の渋民工区などにおいて整備を進めている。今後も着実に整備を進めていきたい。新笹ノ田峠トンネルは、安定的な事業予算の確保と事業効果などを確認することが必要。

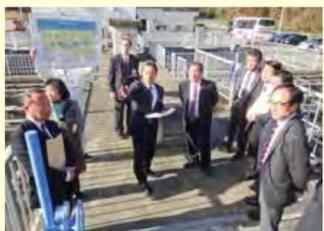
問 県道釜石住田線にもスポットライトを当てて丁寧の手当てをしていくことが重要になってくると考えるか。

答 地域の日常生活を支える大切な道路と認識している。幅員狭小や線形不良区間を解消する道路改良や防災対策を行ってきており、現在は、住田町下寒倉地区と中



坪地区で落石対策等の設計を実施している。未改良区間は、現況を把握するため、調査を行っており、公共事業予算の動向や完成後の流れの変化も踏まえ、どのような整備や改良が可能か検討していく。

企業局県南施設調査



防災・減災特委調査



復興特別委員会



三陸沿岸道釜石秋田線開通



遠野土木センター



予算特別委員会



青森港クルーズターミナル



中央陳情



横浜港湾局



青森県むつ市



大阪府港湾局





宮古盛岡横断道路宮古西道路開通式



国道340号改良工事完成

Activity
Photograph
活動写真



陸前高田市来市
安部総理



陸前高田市来市
鈴木俊一衆議院議員



広田湾漁協 大漁祭り



洋野町ウニの畜養



気仙町ワカメ作業

「県庁への道すがら」 徒然なるままに

懸案となっていた住田～陸前高田間の国道340号が全線供用開始となった。この事業は、遡ること40年も前からの課題であったと聞いていた。豪雨による河川冠水での通行止めは言うに及ばず、路幅も狭く、車両の通行に支障をきたしていたが今回の改良によって路幅も拡幅され、さらに嵩上げもされ、その域から脱した。結果、既にご存知のとおり素晴らしい道路に生まれ変わった。県庁への道すがら、私の胸にも熱いものが去来する。住民の熱意の協力が正に結実した結果であろう。どれほどの人がその恩恵を被るだろう。40年前とは比較にならないくらい人、物の移動が着実に増えている。今後、道のもたらす大きな経済効果が現れてくるはずだ。

県土整備委員会にいたることから多くの道路開通式に出席させて頂いた。7月末現在、以下の道路が開通した。三陸沿岸道 高田唐桑道路。東北横断道路釜石・秋田線 遠野道路。横断道路 釜石JC～仙人峠、三陸道 釜石南IC～両石IC。宮古・盛岡横断道 宮古西道路一部開通。三陸沿岸道 釜石・山田道路等々。道路の延伸は街の将来を乗せ、必ず伸びていく。それに先んじて街を築いていかなければならない。気仙川に目を移せば次の課題が見えてくる。近年、全国的に気象の変動による予想のつかぬ豪雨、増水が流域住民の生活を脅かしている。これから予想のつかぬ災害に対しても生活基盤となる社会資本の整備、長寿命化等、すなわち国土強靱化が必要である。我々自民党会派は動きをさらに加速している。復興事業も8年目を迎え、着実に進んでいる。復興の完遂はもちろんであるが新たな課題として、将来にわたり災害による人命の安全確保に向けた対策にも予算が向けられるよう取り組んでいきたい。令和元年も全国的に甚大な被害が多い年となった。来年は穏やか年であることを祈るとともに皆様の御多幸を祈念申し上げます。

気仙川を眺めながらそんな思いで車を走らせアクセルを踏んでいる。

皆 さんの声をお聞かせ下さい

- ・ 県政に関するご意見・ご相談をお寄せ下さい。
- ・ 今回発行の「県政報告」や私の活動への御意見もお待ちしております。

佐々木茂光事務所

- 発行者 岩手県議会議員 佐々木茂光
- 発行所 佐々木しげみつ事務所
- 発行責任者 佐々木茂光

〒029-2203 岩手県陸前高田市竹駒町字館56-1
TEL 0192-53-1771
FAX 0192-53-1770
メール shigemitu@sasa-shige.net